

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-55	高等学校	福祉	生活支援技術	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 703	生活支援技術		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二号の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に沿って、基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説、事例などを側注やかこみで扱うなど、幅広い内容を取り上げた。 ・利用者への生活支援を学ぶことにより、自分自身の生活や健康を見直すことができるよう配慮した。 ・手洗い、うがい、アルコールによる手指消毒の方法や、標準予防策（スタンダード・プリコーション）などを具体的に扱い、感染症の予防ができるよう留意した。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者に求められる倫理観を踏まえて生活支援のあり方や他の職種との協働について理解できるようにした。 ・介護福祉士をめざす生徒や介護に興味をもっている生徒が、介護に対して魅力ある仕事だと思えるような記述になるよう配慮した。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害のある人が差別されずに地域で暮らし続けられるように、地域住民に理解を求めることも介護従事者の大切な役割であることを取り上げた。 ・障害のある人もない人も、互いに支えあい、地域でいきいきと暮らしていける社会をめざすノーマライゼーションの理念の理解が深められるようにした。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害や加齢により何らかの障害があったとしても、ひとりの命ある存在として大切にし、尊重することが、尊厳の保持であることの理解を深められるようにした。 ・終末期のケアの学習を通じて、生命や死について考え、生命を尊ぶ態度を養うことができるように配慮した。

<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設での行事には、節分の豆まきや雛まつり、餅つきなど四季を感じられるものが多いことを取り上げ、日本の伝統や文化に対する理解が深められるよう配慮した。 ・利用者を理解し、生活を支援する際には、生活歴（ライフヒストリー）や時代背景を知ることが大切であることを示し、利用者が若い頃の遊びや音楽、生活に使用する日用品などに関心を持てるようにした。
---	---

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭・巻末の カラーページ	<ul style="list-style-type: none"> ・からだの部位の名称，人体の骨格の図をカラーで示し，視覚的に知識が深められるようにした（第1号）。 ・さまざまな介護ロボットの写真を掲載することで，介護の仕事に興味を持てるようにした（第2号）。 ・医療的ケアの経管栄養や喀痰吸引の実施手順が理解できるように，流れを示した（第1号）。 	カラーページ 1-6
編とびら	<ul style="list-style-type: none"> ・編の冒頭に章ごとのねらいを示すことで，学習に対する興味・関心を喚起させ，自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 ・章ごとに○×クイズを入れることで，学習の導入として興味・関心を持てるようにした（第2号）。 	p. 7, 33, 135, 153, 169
各節	<ul style="list-style-type: none"> ・節の冒頭にねらいを示すことで，学習に対する興味・関心を喚起させ，自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 ・学習上で重要な用語についてはゴシック体を使うことによって強調し，丁寧に解説をすることで，幅広い知識と教養が身につけられるようにした（第1号）。 	全般
考えてみよう やってみよう 調べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容に関するテーマについて深く考えたり，グループで話しあったり，実際にやってみたりすることにより，自他を重んじ，協力して社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第2・3号）。 	p. 8, 14, 15, 26, 76, 85, 92, 146 など
豆知識	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の理解を深める豆知識を掲載し，幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。 	p. 16, 18, 30, 47, 65, 70, 95, 107, 130, 155など
コラム	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例等を通して，幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 	p. 26, 56, 60, 61, 147, 162など
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の理解を助ける資料を掲載し，幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。 	p. 14, 35, 38, 72, 94, 136 など

編末問題	<ul style="list-style-type: none"> 本文で学んだ知識が身についたかどうかを確認する問題と、さらに理解が深められる問いを扱った（第1・2号）。 	p. 32, 134, 152, 168, 190
------	--	---------------------------

●編ごとの特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1編 生活支援の理解	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援にあたって、利用者のQOL（生活の質）の維持・向上、潜在能力を引き出すこと、尊厳の保持、自己選択と自己決定、自立支援などの大切な考え方を理解できるようにした（第2号）。 自立と自律について取り上げるとともに、介護における自立支援の自立は、何らかの障害があり、他者からの支援が必要であっても、自己選択・自己決定したうえで他者の力を借りて主体的に生活することであることを示した（第2号）。 ICF（国際生活機能分類）を身近な高校生の事例を用いて説明し、理解を深められるようにした（第2号）。 多職種協働について取り上げ、他の専門職の役割を理解し、チームの一員としての役割を示した（第3号）。 	p. 8-15 p. 15 p. 26-27 p. 28-31
2編 自立に向けた生活支援	<ul style="list-style-type: none"> 介護技術の手順はイラストを用いて分かりやすい説明をつけた。特にポイントになるところは、手順ごとにていねいにイラストを付けた（第1号）。 介護従事者として、利用者の状態や状況に応じて科学的根拠に基づいた支援ができるように配慮した（第2・3号）。 	p. 75-83 など全般 全般
3編 緊急時・災害時の支援	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の病気・事故やその応急処置など、安全な環境づくりの重要性と関連づけて具体的に扱った（第4号）。 介護従事者が多職種と連携しながら被災者を支援できるよう、災害時の具体的なようすがイメージできるよう配慮した（第4号）。 	p. 136-145 p. 146-151
4編 終末期の支援	<ul style="list-style-type: none"> アドバンス・ケア・プランニング（ACP）や死生観を取り上げ、死について深く考えられるようにした（第4号）。 死後のケアとして行われる末期の水や死装束など日本の文化的な儀式を取り上げた（第5号）。 	p. 155, 157 p. 165
5編 医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士が担う喀痰吸引等は医行為であり、医療倫理に則って業務を遂行しなければならないことを示した（第2号）。 喀痰吸引と経管栄養を行う介護福祉士は、医療チームの一員としての役割を担い、医師や看護師などと連携を密に行わなければならないことを示した（第3号）。 	p. 171 p. 171, 180, 187など

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富な図などを盛り込んで、介護を実践的に学べるように配慮した。また、感染症の予防対策について実践できるよう具体的に取り上げた。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	介護福祉士や訪問介護員など、介護に関する資格をめざす生徒が専門科目として生活支援技術を学べるよう、イラストを用いて解説したり、実際の介護の事例を取り上げたりするなど、専門的な知識、技術及び技能を習得できるようにした。また、将来介護従事者としての進路について具体的にイメージできるよう配慮した。さらに、介護従事者とともに生活支援にかかわる介護支援専門員（ケアマネジャー）や理学療法士・作業療法士、看護師などの専門職を紹介し、将来の進路選択の参考になるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	生活支援に関わる社会的状況や課題について具体的に触れ、社会の構成員としてどのような課題解決の方向があるのか、考えられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-55	高等学校	福祉	生活支援技術	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 703	生活支援技術		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

自立に向けた生活支援に関する知識と技術を身につけ、適切で安全・安楽な生活支援に必要な資質・能力を育成できるよう以下の点に配慮した。

- (1) 各節に学習のねらいを示すことにより、学習の要点を理解しやすいようにした。
- (2) 図や写真など豊富な資料を掲載し、学習内容の理解を深められるよう工夫した。
- (3) 本文にはユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすくなるよう配慮した。また、外国人生徒が増えつつある現状と多様性への対応を考慮して、原則として小学校学習指導要領の学年別漢字配当表の漢字以外にはふりがなをつけて、多様な生徒が理解できるようにした。
- (4) 「生活支援技術」は「こころとからだの理解」と関連づけて扱うため、関連がわかりやすい構成・配列にし、内容が相互に矛盾しないように配慮した。
- (5) 全編にわたって、かこみなどで具体的な事例を取り上げて、より具体的に介護の現場がイメージしやすいように工夫した。

第1編 生活支援の理解

- (1) 介護従事者として身につけるべき基本的な考え方として、介護従事者自身の健康管理と感染予防対策を取り上げた。
- (2) ICF（国際生活機能分類）の視点で利用者を理解できるよう、ICF について事例を用いて丁寧に解説した。
- (3) 根拠にもとづいた生活支援についての考え方の理解を深めるために、介護過程を取り上げた。

第2編 自立に向けた生活支援

- (1) 食事の支援、入浴・清潔保持の支援など、それぞれについて、ICF の視点でまとめた支援における観察ポイントを示した。
- (2) 生活支援についての知識は、図を用いて視覚的に理解できるようにした。
- (3) 生活支援の技法は、イラストと丁寧な説明文で手順を示し、実践しやすいように工夫した。

第3編 緊急時・災害時の支援

- (1) 加齢に伴う心身の変化と起こりやすい事故を、その予防策とともに具体的な示し、未然に事故を回避することの重要性を理解できるようにした。
- (2) 外傷、発熱、やけど、骨折、誤嚥などの緊急時に適切な対応がとれるように、応急手当の方法についてイラストを示して解説した。

第4編 終末期の支援

- (1) 人の死を看取った経験の少ない生徒が、介護の現場で初めて看取りにかかわる際に必要な基本的な知識と心構えが身につけられるように、具体的な記述やコラムなどを用いて解説した。
- (2) 遺族に対するグリーフケアだけでなく、介護従事者自身のグリーフケアも取り上げるなど、介護従事者のところにも配慮した。

第5編 医療的ケア

- (1) 医療的ケアで学ぶ喀痰吸引および経管栄養は原則として医行為であり、医療倫理に則って業務を遂行しなければならないことや、医療チームの一員としての役割を担うことなどの理解が深められるようにした。
- (2) 誤った操作により生命に危険を及ぼすこともあるため、介護従事者として安全に医療的ケアを実施することができるよう、丁寧に解説し、ポイントはイラストで示すなど配慮した。

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領 の内容	箇所	配当 時間
1編 生活支援の理解	1章 生活の理解	(1) ア	p. 8-11	40
	2章 生活支援の考え方	(1) イ (2) ア	p. 12-21	
	3章 生活支援と介護過程	(1) イ	p. 22-27	
	4章 多職種協働と他の専門 職の役割	(1) ウ	p. 28-31	
2編 自立に向けた生 活支援	1章 居住環境の整備	(2) ア,イ	p. 34-41	200
	2章 家事の支援	(2) ア,ク	p. 42-59	
	3章 身じたくの支援	(2) ア,ウ	p. 60-69	
	4章 移動の支援	(2) ア,エ	p. 70-85	
	5章 食事の支援	(2) ア,オ	p. 86-95	
	6章 入浴・清潔保持の支援	(2) ア,カ	p. 96-105	
	7章 排泄の支援	(2) ア,キ	p. 106-119	
	8章 睡眠・休養の支援	(2) ア,ケ	p. 120-127	
	9章 レクリエーションの支 援	(2) ア,コ	p. 128-133	
3編 緊急時・災害時 の支援	1章 緊急時の支援	(3)	p. 136-145	30
	2章 災害時の支援	(3)	p. 146-151	
4編 終末期の支援	1章 終末期の支援	(4)	p. 154-157	20
	2章 死を迎える人への支援 と留意点	(4)	p. 158-167	
5編 医療的ケア	1章 医療的ケアの理解	(5) ア	p. 170-177	60
	2章 高齢者および障害者の 喀痰吸引	(5) イ	p. 178-183	
	3章 高齢者および障害者の 経管栄養	(5) ウ	p. 184-189	

計 350